



夏色の思い出は作れましたか？大イベントを企画したご家庭もあったようですし、プチ企画を連ねて忙しかったご家族、帰省されたご家族のお話も伺っています。特にいつもと変わらなかったけれど「夏は十分に味わった！」というご家庭も。コオロギが鳴き始めると、どこか“まつりのあと”の後の気分。「行く夏を惜しむ」とは、そんな気分なんでしょうね。

9月に入ると、なかなか忙しい日々がやってきます。学校は早々に運動会です。幼稚園保育所も少しずつ慌ただしくなってきます。就園や就学等少し先のことにも気を揉む時期になりますね。とはいえ、あんずは日々変わらずコツコツと進めていきます。明日付くかもしれない力を今日には求められませんが、今日を充実させていけば必ず明日につながっていきます。

夏バテに気を付けながら、さてさて、少しずつ秋色を感じていきましょう！



## —9月・10月の予定—

- 9月 5日(木) ST(児童)
- 9月 12日(木) 地域連携日(児童・放デイ共にお休みです)
- 10月 8日(火) 地域連携日(児童・放デイ共にお休みです)
- 10月 9日(水) ST(児童)
- 10月 17日(木) ドクターNの医療相談(14:00~)
- 10月 22日(火) 即位礼正殿の儀のため祝日になりお休みです
- 10月 24日(木) レクチャー OF あんず(就学前編)
- 10月 24日(木) 健康診断(児童)
- 10月 25日(金) レクチャー OF あんず(放デイ編)

## ＝お知らせ＝



### 《児童発達支援及び保育所等訪問支援の利用料無償化について》

R1年10月より、あんずの児童発達支援と保育所等訪問支援を利用されているお子さんの利用料が無償化されます。すでに別紙で詳細はお伝えしておりますが、不明な点がありましたら、遠慮なくお申し出ください。児童発達支援及び保育所等訪問支援に関しましては、無償化に伴うご家庭の手続きはありません。

### 《ドクターNの医療相談》(児童・放デイ共通)

10月17日(木)に、埼玉医科大学総合医療センター小児科の奈倉道明先生による個別の医療相談を行います。“ドクターの話を聞いてみたい”“セカンドオピニオンを聞いてみたい”“病院に行く前のファーストステップとして”“診断ってどう考えればいいのか?”等、ちょっとした思いで構いません。ご希望ご関心のある方はお声をかけてください。

10月はまだ空きがあります。12月と3月にも予定していますので

よろしくお願ひします。



## 《放デイのお母さんと児童のお母さん方の交流会》（児童）



9月下旬～10月上旬の予定で、放デイのお母さん方や放デイの職員と、児童のお母さん方の“おしゃべり会”を行います。放デイのお母さんを児童の昼食の時間にお呼びして、就学前の頃の話や今の学校の話等、あれこれ話をさせていただきます。

また、放デイの職員から日頃の放デイの様子や小学生中学生の支援についてお話をする時間も設けます。

月曜日から金曜日まで、どちらか各1回企画していきます。詳細は後日お知らせします。

願います放デイのお母さん方には、個々にお声をかけさせていただきますので、

どうぞよろしくお願いいたします。

## 《レクチャー OF あんず》（児童・放デイ共通）※詳細は別途お知らせします。

10月24日（木）10：15～11：45の予定で、就学前の児童の保護者を対象に講演会を行います。講師は、生活支援センター日向の臨床心理士、武蔵野短期大学の成瀬雄一先生です。

『乳幼児期に大切にしたいこと』というテーマでお話させていただきます。事前にアンケートをお配りし、それに基づいてお話を進めていく予定です。

翌10月25日（金）10：15～11：45の予定で、放デイの保護者を対象に講演会を行います。講師は、立教大学の石幸二先生です。テーマは、やはり皆さんからアンケートをとって決めていきたいと思ひます。



## 《健康診断について》（児童）

10月24日（木）14：00より、児童発達支援を利用しているお子さんを対象に、今年度2回目の健康診断を行います。（あんずの協力医療機関である桜沢医院の茂手木先生が来ます）あんずを利用しているお子さん全員が対象になります。但し、幼稚園保育所又は、他の所属で健康診断を行っている場合は、健診を受けた証明（用紙はあんずで用意します）を提出していただければ、受診していただかなくて結構です。（希望者は受診可）

詳細は別途お知らせします。児童発達支援センターを利用する上での要件となりますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。



## 《さっぽねっとまつりのお知らせ》（児童・放デイ共通）

今年の“さっぽねっとまつり”は、11月23日（土）の午後に行ひます。

今年はお昼を挟まず午後からになります。内容は盛りだくさんで企画しています。チラッと紹介しておきますね。

ホールではミニコンサート。駐車場では、狭山工業高校の学生さんがミニ電車を走らせてくれます。飲み物、みのりパン、クレープ屋さんの販売があり、ゲームコーナー、工作コーナー、フリーマーケットのブースも。そして、恒例の保護者のみなさんのハンドメイド販売コーナーがあります。どうぞ、お楽しみに！

ハンドメイドコーナーへの出品を募集しています！少ない数でもOKです。出品希望の方、詳しく知りたい方は、お気軽に職員まで！！



## とけいクラスの8月あれこれ



「簡単そうに見えて実はむずかしい運動」勝手にシリーズ第2弾!!

今回は「ケンパ」です。とけいクラスでは、巧技台の時間だけでなく、朝の会でも取り入れています。この運動には、片足で身体を支えるバランス力、つま先を使って前に飛び跳ねる力、輪の中に着地できるようコントロールする力、などなどいろいろな力が必要です。まずは、片足で立つことから始める子、失敗してもめげずに何度もチャレンジする子、みんなそれぞれがんばる姿がとても素敵で「ケンパー！ケンパー！」と声をかける私たちも思わず力が入ります。

簡単そうに見えて実はむずかしいことって、普段何気なく生活している中にいっぱいありますよね。ちょっと意識してみると、おもしろいですね。



## めがねクラスの8月あれこれ

8月に入り、楽しみにしていた水遊びがやっとスタートしました。

クラスのカーテンから窓越しに透ける水色に「なんだろう？」「これはあれだよ！好きなやつ」とウキウキしながらカーテンをのぞく子ども達でした。今までとは違うルートに、ちょっとドキドキしていた子も、プールを見ると「これやるんだ！」と抱っこから降りたり、後ろ体重が前のめりになり歩き出す子もいました。



『わかるから動ける』という場面をたくさん見せてくれた子ども達でした。

曜日によってですが、“かけっこ”や“いろ鬼”を取り入れ始めました。これからも、知っていることプラス新しいスパイスも取り入れ、楽しく挑戦できたら、と思っています。

## 放テイのひとり言



この夏も暑かったですね。

真っ赤な顔をしてやってくる子ども達。「きたよ～」「あそぼう！」だったり、視線を合わせて笑ってくれたり…、その瞬間、俄然大人は張りきってしまうんですよね。

さて、新一年生もあんずの生活に馴染んできて、仲間全体がとても豊かに大きくなっている気がします。例えば、おやつ。とてもとてもよく食べてくれます。にぎやかな日もありますが、フッと落ち着いた雰囲気になる場面があり、なごめる時間にもなっています。活動も、よく見て聴いて意欲的です。おもしろさをしっかり感じているようです。内容によっては、ひとりひとりがより楽しめるよう、2つのグループに分けて活動することもあります。また、低学年の友達が率先して当番に取り組んだり、大きい人達の真似っこをしたり、お世話をされたり。タテの糸もヨコの糸も、いい感じで整っています。

みんなの成長に、いい歳の大人が置いて行かれないようにしないとですね🐦

朝夕の風に少しホッとします。さあ2学期！いつもと変わらないあんずで、今日もみんなのこと待っているよ。





## 保育所等訪問支援 8月のある日ある時

8月は保育所と学童保育室への訪問となりました。天候に恵まれ、ようやく水遊びが楽しめると思っていたのに、今度は暑すぎて入れず、お日さまと温度計とにらめっこ、なんて日も。

とはいえ、先生方の中では、「これから続く秋の行事にどう取り組もうか」という思いが膨らんでいます。その子のキャラクターを活かしながら、どう臨んでいくか、訪問した私たちも話に入れていただいています。子どもにとっても、ご家庭にとっても“いい思い出”になるように、その子の強みを活かし苦手なところは支えていくために、少しでもお役に立てればと思います。

学童保育室は、夏休みはいつもより長い時間を過ごすこととなります。でも、家からそのまま来るからなのか、少し余裕を持って過ごせているように見えました。そんなときだから一歩二歩踏み出せることもあるのですね。気持ちのよい訪問でした。



### つながりリレーコラム

第19回目は、みつぎ幼稚園の 三ツ木 伸一 園長です。

#### 『ツバメの子育て』

本園にはここ数年ツバメが巣をつくるようになった。一年目はカラスの被害にあい巣立つことが出来なかったが、去年は4羽、今年は6月14日に4羽。今も4羽のひなが間もなく巣立とうとしている。

突然の新入園児に子ども達は大喜び。特に親鳥がエサを運び大きな口を開けエサの争奪合戦の時や、おしりをチョコンと出してのトイレの場面がお気に入りのようです。多い日は一日500回もエサを運びそうです。根気強い四つ子ツバメの子育てに頭が下がる思いで見守っています。

毎年一生懸命に育てる親鳥の姿は変わりません。だからこそ見ている私たちまでもが、愛おしく、無事に元気に巣立って欲しいと思うようになるのではないのでしょうか。自然と子ども達も幼稚園のお友達を応援します。巣立ってしまった巣を見るたびに、あの子（つばめ）は今も大空を飛び回っていることを願っています。

子どもは同じ地域に戻って繁殖すると弱いヒナが生まれる可能性が高くなるため、違う地域で繁殖する習性を持っているそうなので、もう来ることはないのかもしれないが、親鳥は来年も、みつぎ幼稚園に帰ってきてくれることを期待しています。

雨の日も風の日も懸命にずっと卵を温める姿・カラスを威嚇して飛ぶ姿・自分の身体が大きくなるにつれ、おしくらまんじゅう状態でエサを待ち、親鳥が来ると大きく口を開けアピールする姿、命のつながりを強く感じ、子どもを育てるとは、を改めて考える時でした。

